

義太夫

義太夫協会々報
第9号

昭和51年3月15日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2
新橋劇場別館 TEL (541)5471

後進の育成

佐々木 明 郎

かわいがり過ぎると甘やかしになり、めんどろをみ過ぎると過保護になり、自由を尊重し過ぎると放任になり（この他に、疎外や無視・黙殺の放任もあるが）、教育的関心をもち過ぎると干渉になり、厳し過ぎると苛酷になる。とかくこの世は難しいが、愛情を以て厳しく躾けることが、ほんとうの「かわいがる」ではないかと思われる。

雑巾がけにはハタキがけ、飯炊き煮物に皿洗い、子守り足揉み肩叩き、走り使いに洗濯と、入門しても下男下女同様に、謂わば師匠の私用ばかりをやらされ、芸は耳で覚えるもの盗むものと、稽古はつけて貰えず、半年一年経ったとき、或る日突然、そこへ坐れ、何

を語れ弾け、といわれ、できないとどなりつけられ、ゴッソとやられて瘤が出来たり傷が出来たりというようなことがままあったらしい。これでは、義太夫教室生みの親の一人、故野沢吉二郎師の謂う封建的・前近代的で非能率的な教え方であるが、これとは反対に、手とり足とり、噛んで含めるような稽古ばかりでもまた逆効果を生むから、ときには、突離すこともなければ、創意工夫も積極性も期待できなくなる。即ち、足して二で割るというような曖昧なことではなく、真の中庸、ほどのよい兼ね合いが必要である。

今の若い人は、古くても氣宇が大きく弾力のある明治の教育を受けた年配者とも、大正

デモクラシーや真の自由主義の教育、またはその延長の時代に育った、今の中年後半の人とも、戦争末期の右の全体主義的教育を受けた中年前半の人とも違って、戦前・戦中の傾向への反動としての、即ち真の中庸への帰向を逆コースと誤解した時代に、家庭も学校も職場も、社会全体が所謂一億総甘やかしの風潮のもとに育っているから、必ずしも悪気があって周囲に迷惑をかけたたり不愉快な感じを与えたりするわけではない。教えられないから知らないだけである。（勿論、家庭・学校・職場によって格差はあり、従って個人差も大きい。）

だから周囲は、氣のついたときに、虚心坦懐に、その都度、具体的に、本人や師匠にいったほうがよい。溜めて置いたり抽象的であったり（この両者は必ず関聯がある）すると表現が感情的になったり、虚心であったも思惑があるように受取られかねない。

昔のような、厳し過ぎたりこき使ったりする師匠も、意地悪な先輩も、点の辛過ぎる聴衆もいないのであるから、本人たちも助言や忠告には謙虚に耳を傾けたほうがよい。（その点、若い人人は皆素直だとは思いう。）また学校教育でさえ、最初はほとんどが真似ぶ（学ぶ）・教わるであつても、自学自習の率は一ケ学年につき少なくとも五割づつ増えるのであるから、まして成年に達している以上は、芸は勿論、生活態度（殊に基本的生活習慣）においても、積極的な自覚と創意工夫とが重要であるのは自明のことであると思う。

（次頁に続く）

女義太夫名演集発売

壺坂・廿四孝・朝顔―呂昇 卅三間堂―
 団司・小住・寛八 河庄―土佐広・猿公
 野崎―土佐広・糸三・春草・朝重・仙広
 津賀昇・公純 お申込みは事務局まで
 (コロンビアレコード 二枚組 四千円)

(前頁より)

こどもは親の子であるだけでなく、次の時代を背負う、社会全体の子であり、一人の学生は特定の先生の学級やゼミの学生であると共に、全部の先生の教え子であり、先生も亦特定の学生の指導教授や担任であると同時に全体の学生の先生である。これと同様に、一人の新人はその師匠の弟子であると共に、協会の幹部全員の教え子・後輩であり、師匠個人も亦、自分の弟子の師であると同時に、義太夫協会という学校の学生(新人)全員の先生先輩である。それで何の不都合も無いし、若い人も皆それを望んでいるし、またそうでなければ、伝統と高度の芸術性とを有し、諸芸の司であるこの芸道の維持も発展も期することはできない。

理解とベタ惚れとは違ひし、批判と悪口とも異なるのであって、礼を失せざる批判は好意なのであるから、するほうもされるほうも、「学ビテ時ニ之を習フ」や「学ビテ思フ」が必要であろう。お互いに正しい批判は大事にしたいものである。(協会監事)

長唄	常磐津	義太夫	雅楽	
37%	15%	64%	53%	○
63%	85%	36%	47%	×
地唄	新内	清元	謡曲	
19%	8%	20%	59%	○
81%	92%	80%	41%	×

一、文楽を見たことがありますか。
 (ナマで見た) 4% (テレビで見た) 52%
 (見たことがない) 44%

一、歌舞伎を見たことがありますか。
 (ナマで見た) 16% (テレビで見た) 48%
 (見たことがない) 36%

一、次のものを、聞いた(テレビで見た)ことがありますか。

学校巡演レポ(2)

＝ 高校生 の 意見 ＝

昨年度に続いて、都立向ヶ丘高校、二年生のナマの声をお届けします。お読みになった皆様の御意見、御感想を是非お書き下さい。(講演「邦楽の歴史、三味線の話」実演「新口村」朝重、津賀昇。生徒数二八八名)

一、邦楽に関心がありますか。
 (大変関心がある) 7% (3%)
 (少し関心がある) 28% (21%)
 (余り関心がない) 42% (54%)
 (全然関心がない) 23% (22%)
 () 内は前年度

一、なぜ古典芸能に無関心なのでしょう。

。古典に異和感さえ感じて、自国のものという実感がわかない。

。外国のこのの方がこれから役に立つから。

。一般化されていない。習うにも場所がない。

。若いうちに聞かないので老後にも聞く気がしないのでしょう。

。日本語のもつ「深さ」、これは絶対に外国語にはない。もっと大切にすべきだ。

。親が子へ伝統的なものを伝えたい。

。舶来ものばかりをもちやす国民性。

。自分たちも悪いが家元とか上の方の人にも責任はあると思う。古典芸能が盛んだった頃は(外国のものが入ってこなかったこともあるが)、新しいもの・伝統を作ってきたのに今はそれを守ってただけではないか。

。音楽の時間に少しレコードを聞くくらいでは興味がわかないのは当然、自分で弾いたり歌ったりできる音楽が好きになるのだ。

。テンポが遅すぎる。こっけいである。

。高くて見に行けない、鑑賞にお金がかかる。

。明治維新以後の日本の政策が西欧のものだけをとり入れ、それまでの良いものを切り捨てたため。また、日本古来のものは西欧のものより卑しいという見方が続いている。

。聞いただけではわかりにくい、昔の言葉がわざわざしていると思う。

。国が力を入れていない。三木・永井が悪い。受験に対するつめこみ教育で、広く古典に親しもうという教育ではない。それが大人になり社会人になるから古典に興味を示さ

- 。ない。つめこみ教育の是正が先決である。
 - 。メバリ言って面白くない。生活に密着してしまふ。
 - 。下らないものを伝統の名に於て残しすぎる。教育制度が悪。
 - 。西洋に劣等感をもっていて、自分の国の文化をさげすむような風潮があるから。
 - 。日本人はおかしいんだ。
 - 。面白くないという先入観がある。
 - 。わからないよ!
- 一、語りについて
- 。たかが教科書三ページ。よくまあ、あんなにゆっくり読めますこと!
 - 。ことばも思ったよりわかり易く、感情がこもっていて上手だった。
 - 。あれは、本当に日本語?
 - 。登場人物一人一人のイメージと声がびったりだったので、テープよりわかり易かった。
 - 。笑っている人がいたのはアタマにきた。
 - 。顔を見ているとおかしくなってしまうが、聞いているだけならよく感じがでていて、テンポに特徴があつて面白く思った。
 - 。感情のこめ方や男女の使いわけをど、その人物になりきっていた。
 - 。舞台を見ずにいると一人とは思えなかった。
 - 。うまかったが、面白くとは思わない。
 - 。教科書を読むだけではわからなかった三人の感情の変化をはっきりとつかめた。
 - 。強弱がありすぎてよくない。
 - 。独特の語り方に興味をもった。

- 一、三味線について
- 。音色が今まで考えていたよりすてきだった。
 - 。不思議である。
 - 。語りの感情の浮き沈みとびったり合つて効果をあげていた。
 - 。猫を殺してはいけぬ。猫がカワイソオ。
 - 。語りに気をとられて、聞いていなかった。
 - 。ギターと又ちがう深い音色にじびれた。
 - 。音程、リズム感ともに音痴だった。日本人の特徴をよく示していた。
 - 。ロックと同じようなスケール・コードを使ったものがみられ、その点で興味をもった。
 - 。上手、下手の差がわからない。ヘンな音。
 - 。音色が何となく日本的で、どことなくさみしくて好きになった。
 - 。たまに聞く分には耳を傾けることができるがギターのようにつも楽しめはしない。
 - 。現代音楽に相通する面が感じられた。
- 一、解説について
- 。例えた曲をあげられてもわからなかった。
 - 。三味線の弾き方で男の走り方や女の走り方なんて表わすのが面白かった。
 - 。折りたたみ式の三味線が面白かった。
 - 。知らないと思つていた曲が、いざ聞いてみると案外知つているのが多かった。
 - 。折りたたみ式三味線にはがっかりした。
 - 。三味線で色々な表現をするのに興味をもったが、中にはどうしても解説のものと同じするとは思えないものがあつた。
 - 。急に歌い出したりするのでびっくりした。

- 一、全般的な印象
- 。人形がでないのはなぜか!
 - 。こういう企画はまたやった方がよい。間接的となまでは大部ちがうから。
 - 。無理にでも聞いたことがあれば、将来全然聞いたことのない人よりは助かることがあるかもしれない。
 - 。あまり義太夫には親しめそうにないようだ。
 - 。古典芸能を身近に考えるきっかけとなった。
 - 。こんなのは無意味だと思つた。
 - 。人形つきと思つたので、はじめがっかりしたが、面白かった。
 - 。色々な事を知るのには大切なことである。
 - 。少々たいくつしたが、いい経験をした。
 - 。疲れた、眠かった。
 - 。義太夫も内容がわかるようになれば楽しいものだと思つた。有意義だ、続けてほしい。
 - 。日本人のだから、少しは自国の文化を見直してもよいと思つた。
 - 。こんなものかと思つた。
 - 。時間が短かすぎる。希望者にもっとくわしく見せればいいのに。
 - 。日舞をやったことがあるのに、三味線などについてはあまりに知らない自分が恥しい。こういう行事は、もっと生徒全体の関心が高いものを選ぶべきだ。
 - 。迫力があつて、テレビとは大分ちがう。
 - 。面白くない、やめてしまえ。
 - 。古典の良さが何となく少しわかったような気がした。

高山樗牛の近松論

内野 三 恵

三、近松戯曲の女性

本稿は副題、二、近松戯曲の女性 に仮に設定した総論(一)巢林子が戯曲に於ける人 (一)女子とは如何なるものぞ (二)愛と名譽 (三)嫉妬は愛の反面に続く (四)から(八)に至る戯曲上の実例として樗牛の示した女性の種々相を論じたもので、総論の裏づけである。樗牛の行文は義太夫を知り尽した人へ向って彼の所信を披歴したもので、今日の一般には難解である。私は可及的戯曲の概要及び実録を引き、樗牛の抽出した代表的女性の理解に力めたい。

(四)『天の網島』のおさん 樗牛は、おさんが女性中最も善く写された例とし、彼女は夫紙屋治兵衛の放蕩の過度を憂え、夫の通り遊女小春に絶縁をせまる。その言分は家・夫のため、その口の下から「嫉妬は女の役」と本音を吐く。要するに嫉妬を恥辱とし、小春に道義上の名譽を押し着けただけで、小春を信じたので、承諾を予期したのではない。近松はおさんの心情を尤のこととする。小春は義を重んじ、おさんの申入れを容れた。おさんは小春の高義に感激した。小春は恋を捨てて女の恥辱に替えて、おさんの大恩人となる。こうなるとおさんは、治兵衛とともに小春を

同情し愛憐するに至り、先の嫉妬は友愛の情と変った。

この正本は『天網島時雨炬燵』紙屋の段、「エ、そんならほんまに小春さんは、お前に愛想つかしを言ふて、太兵衛が所へ行く苦かへ」「ア、そんなら小春さんは、生きてゐる氣じゃないわいな、ア、死なしやんすわいな、」……か程敏感に激動変転する女性の純情の活写及び終焉に至る間の近松の女性のうち、樗牛はおさんを第一に挙げた。

更に治兵衛が「あの無心中者、何の死のう」と小春を嘲るに及び、おさんは俄に小春の弁誣に立ち、情義に感じた一念は、自身の未来を考える暇もなく、小春の命を救い到底離れえぬ小春と治兵衛を添はせようと、兄が都合してくれた商用金五十兩と、あとは自分丸裸、子供の物まで質草にして二十兩、小春を請出す資金ぐり、小春治兵衛に替って太兵衛に面当てしようとする。女心のスピリクス、潜在名譽心の発作、女の義理張りである。が半金入れて「請出して困ふて置るか、内へ入れるにしてからが」となると、最早おさんは思慮分別を失う。「真実の妹くく、持ったと思ふて」と自己放棄、狂気の沙汰である。樗牛はこれを女性の本性たる愛情の一面、名譽心即ち自尊心が愛情を抑制した蹤跡と解析する。が、この事は既に感情でなく義理道義即ち理性である。古くは、身を引いてこそ浮ぶ瀬、おさんは窮極厄となる。

(六)『出世龍徳』の吾妻 樗牛は女性の特性の不注意、即ち思慮のあさはか、論理追求の

不足、性急、一徹、一時にかつとなる弱点の例と取る。『淀鯉出世龍徳』である。樗牛の書き出しが、いきなり「彼女は其の情郎の窮困を見て、其のいとしさに堪へず、咄嗟に二百金を調達すべきを受合へりき。身はままならぬ遊女なり、その如何にしてかかる大金を調へんとはせる」と書く。この情郎は実録で、先代の蓄財を一代で蕩尽した大阪北浜の富豪の倅、淀屋辰五郎(戯曲の江戸屋勝二郎)女は茨木屋の遊女吾妻である。二百金云々は吾妻身請にからむ金の一部。「男の流浪したのを聞きながら身の首尾を思ふやうな傾城じやと思ふて下さんすは」という女の恋の名譽心である。かくて勝二郎吾妻は連立での流浪に暫時の楽園を築いたが、東の間、吾妻は再び客をとる身となり別れて五年目、逢うた日が明日藤五郎なる男に身請されるという始末。吾妻は「二階の客を刺殺せば、明日の難儀を脱るゝ徳、金を取れば勝二郎様のお為になる是が徳」(徳の用法至妙)女の智恵こそ果敢なけれど、女らしからぬ、寝ばなの藤五郎に跨って「こなたに怨も罪もない、仮にも惚れてくれた人殺したふはないわいな、殺さるゝこなたより殺す我身が悲しいと涙は刃を伝ひしが、なふ生けて置いては請出して、女夫になるが情けない私には大事な男が有る、其の男と縁切れる恋路の仇となる故に、今刺殺す穢の、小判も貧乏な男に遣りたい、殺生の罪盗の罪、男の為につくる心、少しは恨を晴れてたも」と「弁解するに至っては、何ぞ其心のやさしきや」が樗牛の言、精神でもある。かつ近松の

女人詩への共感である。樗牛はだめおして、「吾妻は其の恋人を見て他を見ざればなり：彼女は天地に俯仰して疚しき所なし、愛はあらゆる罪の弁解者なればなり」と書加え更にヘスター・プリンの「吾等の為せし事は其れ自らの純潔を有せり（英原文省略）」と。また「罪と愛とは常に不幸なる伴路」と執拗に加筆した。（後日の実録をここに書き添える頁数を持たなす。）

(七)「槍の権三重帷子」のおさゝめ 樗牛は、世に最も有勝な女性の不注意を示す例とする。おさゝめは貞操を欠く女でなく夫への愛情は篤実であるが、本性愛情に充ち、その挙措に愛嬌があり過ぎ、身を節制すべき厳しい素行に欠けた。「一言にすれば彼女はしまり無きなり。」と言う。樗牛が幾ら屈屈に書いても、女が情的に締りがなければ、先が予想される。然も「世に最も有勝」という点に注目しよう。実録は、享保二年（一七一七）七月十七日、大阪高麗橋に妻敵討があった。士の妻が不義密通した際は、士たるもの姦夫姦婦を討たぬと不面目。松江侯の茶道役玉井宗重（戯曲で市之進）が妻お勘（おさゝめ）、姦夫同家中の池田軍次（槍の権三）を討ったのである。重帷子の訳は、夏のこと不義者二人が帷子薄衣を着ていたのに依る。近松は翌月竹本座にかけた。正本は「おさゝめは流石茶人の妻、物数寄もよく気も伊達に、三人の子の親でも、華奢骨細の生れつき、風忍ばしく床しく、三十七とは見えざりし」と性格風姿を写し、その娘お菊十三歳（あと二年もすれば、権三、

二十五才・現）を添はせようと、権三の武芸器量を褒め、お菊が否むをみて、「そなたが否なら母が男に持つぞや、ほんに市之進殿といふ男を持たねば、人手に渡す権三様じゃなすわいの」と、事もなげに放言する。そして権三に逢って娘の婚約をする。が、「まず娘には遇はせませぬ。私に似たらば定めて情気深からう」と誘の水、権三が茶の湯、台子の伝授書秘見の希みを幸い、良人不在の深夜を約す。権三の帯から彼に女があるのを責めおさゝめは、かっとなり権三の帯わが帯も庭先に投げとばす。さい前から茶の湯秘伝書を盗もうと潜入していた伴之丞に不義の証拠と拾い取られ声高に呼ばれる。肌は触れずとも万事休す。市之進女房を盗れたとあれば「人に面は合されまい……不義者に成極めて、市之進に討れて、男の一分立て進せて下され」と、おさゝめの哀願、愛情は俄然分裂する。権三は不義は否定するが、武士も女も戻ったと戻りついで的心中を迫る。おさゝめの返答、「今こゝで女房じゃ夫じゃと一言いうて下され思はぬ難に名を流し、お前もいとしいが、三人の子をなした廿年の馴染には私は換えぬぞエ」の言に、樗牛は「人情最後の絶調」と讚辞を贈る。樗牛の言、敢ておさゝめの子への愛と義、三人の子への母性愛を義に替える健気さを濃縮していると思う。

(八)「宵庚申」のお千代 樗牛は、女の恋の名誉心の中に因る心中物の異色の例とする。実録と戯曲化について「享保七年（一七三二）四月五日宵庚申の夜、寺町大仏勧化所門前で

八百屋半兵衛と妻お千代の夫妻心中があった。舅伊右衛門が嫁お千代に横恋慕したのが原因。異色であるが古代稀でない。際物脚色の盛期、東の豊竹座で紀海音作「お長半平 心中二腹帯」、西の竹本座で近松が「おちよ半兵衛宵庚申」と先を争った。

お千代は結婚に不運な女で初婚は生別、次は死別、三度目の結婚に夫婦心中、それも嫁して足かけ二年、脚色も実録に近いという。樗牛は「かゝる夫妻の間に純潔無二の愛情の存し難きを思はざるべからず」と推理し、且お千代はなお夫の不在中に姑から暇をだされお千代を愛し同情する夫半兵衛まで悪むに至った。半兵衛は「足かけ二年の馴染、子までなしたる夫の心」と善意を尽すが、お千代は結婚不運の前歴から「定め無き男女の習」と自ら拗け孤独へと身を押やった。樗牛は、お千代の心理推移の深奥に女の恋情の一要素名譽心の潜在を認める。即ち半兵衛を愛したと言うより、夫婦関係の形式を尚ぶに逼したと論ずる。結果お千代の昂奮は、半兵衛の愛言に対し「物をも言はず」実家に去った。近松もこの現実を「まゝならぬ」もの憐むべき宿命とした。樗牛言う、「進んで愛する能はず、退いて名譽を保つ能はずんば……死あるのみ」と。三度目、出展ってくれば、お千代の姉は「恥かしい恥かしいと口で言ふばかりが恥を知ったと言はれふか」とお千代を難じる。お千代の病老父は「案じらるゝは子の身の上、三度はおるか百度千度去られても、去らるゝに定まりし前世の約束と思ひあきらむれば、

悔もせぬ、憎うもない。笑ふ人は笑ひもせよ……と。樗牛は老父の慈悲の言葉を憤怒嘲罵にまさりて、痛切に激越にお千代の胸に響いたか、と書く。

もとよりお千代を愛し同情していた半兵衛は、家庭の風波救済難い、さりとてお千代一人悪妻として死なせぬと、半兵衛はもと武士姑に悪名を被せたくなく「女房計りは親の儘にもならぬ、身が気に入らぬ、去った」出てうせい」と母の罪を被て死への旅出となる。『八百屋半兵衛女房お千代道行』である。こゝに半兵衛お千代の纏綿たる想愛の情が綴られる。死出の道行はお千代が一端婚家に戻ってのちの事である。

樗牛は、半兵衛の姑への義理立ての離別の言葉をきき「エイイすりや何うでも去らるか」のお千代の驚愕落胆の声を、断腸の響とし、彼女は絶望の裏に死ぬと解した。これは樗牛の誤解か、『道行』を読まなかったかに依ると思はれる。お千代の重なる結婚の不幸も恥辱も道行・心中により払拭されたのである。もう一つ、樗牛の触れなかった死所で一蓮托生の回向の後「今の回向は我身の回向、可愛やお腹の五月の男か女か知らねども、此子の回向して遣りたい」の愁嘆である。母性愛と夫婦一心同体を暗示する此のお千代の優しさは取上げるべきだったと思う。

本稿作成に主として飯塚友一郎著歌舞伎細見、近松傑作全集（早稻田大学出版部）を参考しえたことを深謝する。

(文化庁助成)

学校巡演寸感

戸叶 逐道

先日、一月十六日夜六時開演、川崎市立高津高校定時制生徒三〇〇名以上出席でした。予め頂いた地図をたよりに荷物運び旁々お手伝いしてきました。初めての場所を探し乍ら出掛けるのは誰方でも億劫が大変だと思いましたが、この時は場所探しは上手だと思ってい

る私も無駄足をしてしまいました。地図を書いて教えるのは中々むづかしいものですね。義太夫は「野崎村」を太夫、朝重師、三味線、津賀昇師、ツレ弾きはお弟子の津賀友さんで、彼女はプロ披露後の初出演でした。非常な拍手で、若い生徒たちには無理と思われている義太夫の素語りを、いつも以上に飲ばれてホッとしました。

古典芸能の邦楽の各種のものは、身近に常に接していないと、その良さがわかりにくいものでしょうか。解説つきで予備知識を話しますと、全部でなくともその良さがわかって貰えるものと感心しました。それでも全生徒の何パーセントかは疑問です。パンタ・レイギリシヤの哲人ヘラクレイトスの万物は流転す、も本当だとは思いますが、義太夫界に携わる一員として、斯界の発展の為、社団法人の義太夫協会が務める仕事の一端と存じます。

◇ 寄 贈 ◇

昨年度より左の方々からの御寄贈がありました。さっそく有効に活用させて頂いております。どうも有難うございました。

※※※※※※※※※※

- 藤田 昌子 様 五行本 二一冊
- 野沢 吉二郎 様御遺族 大近松全集・大百科辞典その他 五六冊
- 鶴沢 英治 様 パチ 一挺
- 真鍋 元之 様 伝説の都 四冊
- 足立 十中 及川 先生 台本 六冊
- 野沢 吉平 様 五行本 一五冊
- 竹本 秀太夫 様 バチ 一挺
- 島田 天賞 様御遺族 コマ 一ケ
- ハカマ 三ケ
- 五行本他 十冊
- 柏子木 二枚
- 肩衣 一組
- 六枚
- その他着付等 六枚
- 建松 愛寿 様 三味線胴 一ケ
- 胴かけ 一ケ
- 五行本他 六十四冊
- 合びき 一ケ
- 根 尾 二ケ
- 根 尾 一ケ
- 糸(新品) 多数
- 根 尾 一ケ
- 鶴沢 扇糸 様 一ケ

協会の動き

〔昭和五十年〕

10月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭
 10月23日 学校巡演 足立区立第十中学校
 10月27日 公演委員会、芸術祭参加公演・慈善公演について 於新小松
 10月29日 第六回邦楽演奏会・記者団発表パーティー 於丸の内会館
 11月1日 12月の本牧公演に備え、若手による「大序」の稽古始まる。講師、豊沢猿三郎師 於新小松
 11月6日 前文化庁長官・安達健二氏に感謝する会 仙広副会長、日置事務局 長出席 於東京会館ローム
 11月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭
 11月29日 昭和五十年度文化庁芸術祭参加「義太夫名曲をつづる東海道」当日交通ストにぶつかり、客席が寂しく残念。於三越劇場
 12月20日 第五回心身障害児の為の慈善公演。女流義太夫師走合同公演を兼ね、吉例「仮名手本忠臣蔵（大序より九段目まで）」を、総出演にて演奏。当日の収益をNHK厚生文化事業団に託す。於本牧亭

12月21日

2月24日

12月26日

昭和50年10月より
 昭和51年3月まで

女流義太夫師走合同公演。昭和五十年お名残公演として、前日に続いて、忠臣蔵を総掛合にておくる。二日間とも大盛況。於本牧亭
 昭和五十年度「祖先祭」11時半、本堂にて続経後、懇談会。会長より「師走興業、慈善公演が好成績をおさめ、歌舞伎関係の多数入会を得て意を強くした。芸術祭参加公演は良い企画で熱演であったと思う。機会均等は協力としては望ましいが、受賞を狙うなら公演時間等、作戦も必要かもしれない。会場の客席のマナーが問題になった。かけ声は良いのだが雑談が多い。これは他の演奏会では見られないこと、お互いに日頃から注意して、義太夫界全体のレベルアップを。反省の機会を得たということで、来年は立派な成果を上げて頂きたい。」との挨拶（要旨）。他に新入正会員（竹本三駒・鶴沢津賀友）の披露を行う。於回向院 仕事おさめ

〔昭和五十一年〕

1月6日 仕事始め。常務理事会。新年会。東京都助成邦楽演奏会・義太夫教室について 於事務局
 1月16日 学校巡演 川崎市立高津高校
 1月20・21日 女流義太夫公演会 於本牧亭
 1月22日 歌舞伎第三期研修生試演会「帯屋」を竹本講習生が担当、好評であった。於国立劇場小劇場
 1月24日 新春懇親会 於ほんもく
 2月24日 会報第八号発行
 1月29日 昭和五十一年度会員名簿発行
 2月8日 定例理事会 昭和五十一年度事業計画・芸団協功労者賞、新人奨励賞について、於新小松
 76都民芸術フェスティバル 第六回邦楽演奏会（邦楽連合会主催、東京都後援）に協会女子部が参加。仮名手本忠臣蔵・一力茶屋の段、義経千本桜・道行初音の旅を演奏。観客のアンケートで義太夫の熱演について多くふれられていた。
 於 第一生命ホール
 2月12日 学校巡演 中野区立中央中学校
 2月16日 常務理事会 51年度総会・湊太夫師追善会、51年度義太夫教室講師について 於事務局
 2月23日 学校巡演 二松学舎高校
 学校巡演 城西高校
 学校巡演 明星学苑高等部

歌舞伎の義太夫Ⅱ竹本連中の

後継者養成事業

竹本講習始まる(三)

早いもので、昨年九月十日に発足した国立劇場に於ける竹本講習も、丁度半歳を迎えることになった。この間各教師の熱心な指導・国立劇場養成課御一同の大変なお力で所期以上の成果を挙げ得たことは隠れなき事実である。十二月の国立劇場・京都南座、一月の国立劇場での舞台実習でかなりの成績を挙げ、そして一月二十二日に行われた「歌舞伎第三期研修生試演会」の実技「帯屋」の竹本を講習生が勤めた(三味線は鶴沢絃二郎氏)が、これも及第点以上ということであった。

右の結果、三月十五日の「歌舞伎第三期研究生卒業公演」の実技「角力場」・「引窓」の竹本を講習生が勤めることになったのである。「角力場」を清太夫・「引窓」の前を立太夫・中を清太夫・後を国太夫という予定であったが、京都南座三月公演にどうしても狐火のツレが足りないため清太夫が舞台実習と

して京都に廻されてしまった。当日は昼の舞台を終えて新幹線でかけつけたが、「角力場」には間に合わず、国太夫が代演をした。「引窓」は予定通り行われ、三味線の絃二郎氏のリードで、まずはつゝがなく終了したことは喜ばしい限りであった。(指導竹本扇太夫氏・豊沢猿若氏)。

歌舞伎の研修生はこれで卒業するわけだが、竹本は益々これからというところなので、講習生の愈々の精進を祈る次第である。

前号でもお願いしたことであるが、協会会員・義太夫教室OB諸氏の中で、竹本の三味線になってみたいと思う人、またはお知合いで適当な人が居られたら、協会まで御連絡下されば幸甚……。(以下次号)

芸団協功労者賞

豊沢猿三郎師受賞

永年理事として協会運営に尽くされ、現在在は相談役として尚活躍されている猿三郎師が受賞する。3月18日に銀座東急ホテルで表彰式が行われる。
永い間御苦労様、おめでとぅ……。

—お知らせ—

*芸団協助成新人奨励賞 50年度は竹本越孝、豊竹公二郎が受賞。3月20日(土)本牧亭の女流義太夫公演会席上で表彰されます。

*芸団協第二回主催公演「義経伝説の芸能」義経をえがいた諸芸能に日本のところをさぐるノ 幸若舞・歌舞伎・相川音頭その他
3月25日(木)5時半 26日(金)1時・5時半 三千・二千・千円 於国立大劇場

*名韻会「学生邦楽大会」 3月29日(月) 義太夫教室生徒(語り4名・三味線21名)で恋女房染分手綱、道中双六の段を演奏。

指導 竹本弥乃太夫 於東横ホール
*湊太夫師追善演奏会(仮称) 協会元理事 湊太夫師の七回忌にあたり、義太夫教室同人を中心で開催。6月21日、本牧亭の予定。

計 報

小田切幸子氏(一鳳氏夫人) 50年12月9日歿
豊竹 寿太夫師(正会員) 51年2月6日歿
お二方の御冥福をお祈りいたします。

編集後記

今年度末ギリギリになりましたが、今年度三号目の会報を発行できて、肩の荷が下りた気がいたします。不定期な会報ですが、皆様と協会とのパイプ役を果せれば本望です。四月からの新年度にも、どうぞ原稿、御意見をお寄せ下ささ。